

# リスク・コミュニケーションにおける社会的論争

## ～災害報道の現場を例に考える～



講師：近藤 誠司

20年間、NHKのディレクターとして災害報道に従事。現在、関西大学社会安全学部助教。専門は、災害ジャーナリズム論。京都大学大学院情報学研究科博士後期課程指導認定退学。博士（情報学）。NHKスペシャル『メガクエイク』で科学技術映像祭・内閣総理大臣賞を受賞。主な著書に、『ワードマップ 防災・減災の人間科学のちを支える 現場に寄り添う』（新曜社、2011）など。

リスク情報の共有を図るための災害報道。しかし実際には、その任を果たすどころか無用なトラブルを引き起こす事態までも散見されます。そのたびに、情報の伝え手に対するモラル教育や、受け手に対するリテラシー教育が叫ばれてきました。

しかし、喉もと過ぎればなんとやら…。問題は克服されないままです。

そこで今回のセミナーでは、災害報道の現場を例に、ポスト311の現代社会におけるリスク・コミュニケーションに何が求められているのか、あらためて見つめ直してみたいと思います。

2014

7/25(FRI.)

16:30-18:30

共通講義室4

(東北大学理学研究科 合同A棟3階 303号室)

7/25  
(金)

13:00～16:00 第3講義室(理学研究科合同A棟2F 205)

講義：「リアリティの地平 ～情報と状報～」

ワークショップ：「リアリティを可視化する」

16:30～18:30 第4講義室(理学研究科合同A棟3F 303)

講演 「リスク・コミュニケーションにおける社会的論争

～災害報道の現場を例に考える～」

7/26  
(土)

9:30～12:00 第3講義室(理学研究科合同A棟2F 205)

講義：「リアリティの地平 ～正解と成解～」

ワークショップ：「羅生門プロブレム」

※単位取得希望で未登録の学生は、大学院教務係に相談して手続きをしてください。

✕ このセミナーは、2014年度大学院講義「科学コミュニケーション」の一環です。ご興味のある方はどなたでもご参加いただけます。

お問い合わせ  
hondou@mail.sci.tohoku.ac.jp(本堂)(内線5823)

詳細  
<http://web.sci.tohoku.ac.jp/hondou/3-kagakuto.html>  
または「東北大 科学コミュニケーション 近藤」で検索